

II. 教育の内容

1. 教育課程

本学教育の基本目標「学びの自由化と個別教育（個に応じた教育）の推進」を目指し、オリエンテーション、教育課程、資格取得用補助教育、進路指導、授業評価、国際交流、地域社会活動、ファカルティ・ディベロプメント(FD)、学生募集、教職員人事、施設整備、組織改革など、教育に関連するすべてにおいて、「学びの自由化」の理念を推進するとともに、昨年度から始めた、地域に認知され、地域を教育の場として活用することを目的とした「地域活性型人材育成」プログラムをさらに発展させることで、本学の教育過程が一層魅力あるものとなるように試みている。

本学の教育課程は、総合教育科目等を中心とする両学科共通科目と、各学科の専門科目によって構成されている。

(1) 両学科共通科目

高等教育機関の存在意義は、専門科目の学修のみにあるのではなく、社会人として、すぐれた教養と考える力をもった人材を輩出するところにある。従って、カリキュラムにおける両学科共通科目は、専門科目履修に先立つ基礎教育として重要な役割を果たすために、情報処理科と国際文化学科に共通の内容もつ基礎科目群として開講されている。ここでは、各科目の独自性を維持しつつ、高等教育機関の特色である、広い視野を備えた学生の育成を図るという教育理念のもとに、各科目が構成されている。特に、短大として、教養教育を、専門教育等のすべての教育の基盤として強化するという方針から、従来の教養科目を配した総合教育科目を軸に、現代の教養として各種外国語、情報関連科目やスポーツ科目を強化し、なおかつキャリア育成を支援する進路対策科目もより一層充実させた。

1) 構成

- ・ 現代文明論
- ・ 総合教育
- ・ 外国語
- ・ ビジネス基礎
- ・ スポーツ
- ・ 進路対策
- ・ 留学生日本語
- ・ 海外留学

2) 2010年度現代文明論Ⅰ・Ⅱ概要

2010年度の現代文明論では、「若き日に汝の思想を培う」ことを支える能力としての「聞く」・「書く」・「編む」・「発言する」力を訓練をレポート作成と討論を通して育ててゆくことに一層の力を注いだ。「聞く」・「書く」・「編む」力が「思想を培う」こと、それを発表する力の育成を現代文明論の伏線に位置づけた。基本的な講義編成としては、東海大学の建学の精神や教育理念を伝える講義を核に、「現代文明の基盤」、「文明の多様性」、「文明の未来」を柱に各講義が編成した。2009年度より『思想を培う』技術と方法として現代文明論運営委員による、「聞く」・「書く」・「編む」・「発言する」力を培う訓練を行ってきた。年々現代文明論受講者が静かにスクリーンの文字列をノートに書き写し、画一的なレポートを作成する割合が増加している。このような授業の受け方は入学に至る中学高校における習慣が身に付いていると思われるが、これを打ち壊すところから「思想を培う」一歩は始まるものと考えられる。

このような訓練を経た受講者に、現代文明の今を認識してもらおうとともにそこから自らの現代文明についての考えや問題を解決する意識を養ってもらうことを年間の目標として年間計画を作成し実施した。

かつて香取草之助副理事長は、「積極的にたくさんの先生方が『現代文明論』にかかわって、理想から言えば誰でも自分の専門という窓を通して見た、経済学なり歴史学なり、科学技術などを科学技術文明の流れの中でとらえて、自分たちが今いる地点がどういうものなのか、それがどちらの方向へ流れていこうとしているのか、流れていくのが望ましいのか、そういう講義を誰もができるようにということを（創立者は）言うておられた。」と述べている。福岡短期大学においても、社会の急速な変化、受講者の多様化などに対応することが必要となってきた。したがって2009年度

から現代文明論の講義担当者を学内公募し2009年度を踏襲した講義計画を作成した。

福岡短期大学の現代文明論はフラッシュ Web 教材形式で毎回の授業を e ラーニング化している。これは公認欠席者の補講とレポート作成が思わしく行なう事が出来ない学生の指導に用いる事だけに限定した使用として講師の許諾を得ている。

また学生に成績と出席の状態を把握させるために「これまでの成績と出席」を最終回まで維持した時の評価と出席回数をシュミレーションし、数回の授業ごとに掲示した。

b. 2010 年度 「現代文明論 I」 授業編成

回数	期日	講義区分と題目	講師	授業の目標
1	4/15	ガイダンス	運営委員	1. 「現代文明論」 講義の目標と運営概要, 受講技術指導 2. 「レポート」 の書き方および添削について
2	4/22	【思想を培う技術】 話されたことばの記録	運営委員	1. 話された言葉を記録する 2. 話された言葉を文章化する
3	5/6	【建学の精神をさぐる】 東海大学建学の思想と源流	西野 仁 (福岡短大学長)	創設者松前重義博士が描いた東海大学建学の思想と背景。
4	5/13	【建学の精神をさぐる】卒業してから 現代文明論は役に立つのか	竹内 裕二 (国際文化学科)	私の軌跡をたどりながら、後輩である学生諸君に現代文明論のあり方を理解してもらいたいという先輩からのメッセージを込めた。
5	5/20	【建学の精神をさぐる】 デンマークに学ぶ	難波 克彰 (現文センター)	デンマークに学び創立された東海大学。私たちは豊かな福祉社会を作り上げるために再び学ばなければならない。
6	5/27	【文明の基盤】 文学と文明	神山 高行 (国際文化学科)	文明及び社会生活における文学の役割について
7	6/3	【文明の基盤】 現代社会における数学の役割	宮川 幹平 (情報処理科)	抽象的に物事を捉え思考することが現代社会における問題解決に有用であるか、これまでの成果を含めて考察する
8	6/10	【文明の基盤】 エネルギー問題	齋藤 守正 (情報処理科)	太陽光発電は地球温暖化問題を解決するだけでなく、化石燃料の地域偏在による経済問題、国際紛争も緩和する。
9	6/17	【文明の多様性】 異文化理解における観光の役割	大方 優子 (国際文化学科)	観光という活動を通して、異なる文化の存在を認め共存することの意義を考える。
10	6/24	【文明の多様性】 多民族社会を考える	吉岡 メリー (国際文化学科)	現在の日本社会は単民族的でしょうか、それとも多民族的でしょうか？
11	7/1	【文明の未来】 小型化への追及	八尋 剛規 (情報処理科)	さまざまな情報機器に関する最新技術の動向と、今後予想される社会の在り方について述べる。
12	7/8	【文明の未来】 情報化社会と先端技術	矢原 充敏 (情報処理科)	ものづくりと情報との融合の観点から最先端技術の進歩と現状そして可能性を考える。
13	7/15	【思想を培う技術】 討論 授業に参加する	運営委員	「私の文明観」(委員と学生によるパネル討論)

14	7/22	授業総括と授業評価アンケート	運営委員	総括（何を得たか、自分の対応や課題などのレポート）および授業評価アンケートの記入
----	------	----------------	------	--

2010年度「現代文明論II」授業編成

回数	期日	講義区分と題目	講師	授業の目標
1	9/30	【思想を培う技術】 まとめて文章にする	運営委員	1. 「現代文明論II」講義の目標 2. まとめの技術
2	10/7	【文明と教育】 建学の精神の具現化 福岡短大の教育哲学	西野 仁 (福岡短大 学長)	「東海大学」の建学の精神、特に人間の思考基盤である「思想を培う」ことを中心に福岡短大における具現化
3	10/14	【文明と教育】 東海大学の基本理念と未来	蟹江 秀明 (理事・東海大学文学部)	現在の東海大学と今後の展望
4	10/21	【文明と教育】 現代インドの初等教育	赤井 ひさ子 (国際文化学科)	1990年代から現在までのインドの初等教育を取り上げ、多彩な文化を持つ国・地域への理解を深める
5	10/28	【文明と教育】 ゆとりのある社会	北濱 幹士 (国際文化学科)	質的に豊かな生活が実現できる社会と実現に向けた取組み
6	11/11	【文明の基盤】 中国文化と数字	チョウアンナ (国際文化学科)	中国の数字は、文化学、民族学などを含む多様な役割を有している。数字が内包する中国の文化的要素とその背景を考える。
7	11/18	【文明の基盤】 PC 発達史に見る日米文化比較	徳永 克美 (情報処理科)	MPU のアイディアは日本企業が最初であったが、日本企業が MPU の設計、製造に関して主導的立場となることはなかった。PC の発展過程を追い日米文化の相違について考察する。
8	11/25	【文明の基盤】 科学技術と資源	末松 泰子 (情報処理科)	人間社会、科学技術の発展とともに資源利用がどのように変遷したかを概説し、資源と環境問題の関わりについて考察する。
9	12/2	【文明の多様性】 近江商人の生き方に学ぶ	佐竹 則昭 (情報処理科)	企業の偽装が後を絶たない現在、三方よしの近江商人の生き方を知り、働くことの意義や目的を考える。
10	12/9	【文明の多様性】 東アジアの民俗と社会	伊原 奉賢 (国際文化学科)	隣国の歴史と現実を認識し、多民族社会が抱える課題や問題点について理解を深めながら、東アジアの未来を考える。
11	12/16	【文明の多様性】 地域と観光	宮内 順 (国際文化学科)	地域の活性化及び地域環境の保全に観光がどのような役割を果たすことができるかについて現状と課題を中心に考察する。
12	1/13	【文明の未来】 共生の思想にむけて	真下 仁 (国際文化学科)	この講義では、共生への可能性の思想的背景を中心に考察する。
13	1/20	【文明の未来】 ビットの時代	伊津 信之介 (情報処理科)	デジタル文明の時代はどのような時代でそんな世界が広がるだろうか？
14	1/27	【授業総括】 現代文明論II で学んだ事	運営委員	授業のまとめレポート、授業アンケートなど

3) カリキュラム

両学科共通科目 (2010年度生)

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤には「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	eラーニング	備考
					1	2	3	4				
現代文明論	現代文明論I	講義	○	2	2				専任	103	103	4単位必
	現代文明論II	講義	○	2		2			専任	101		
総合教育	現代社会と思想	講義	●	2	2	2			専任	53	○	選択必修 4単位以上
	文学と歴史	講義	●	2			2	2	専任		○	
	青年期の心理	講義	●	2	2	2			非常勤	85		
	経済と国際社会	講義	●	2	2	2			専任	151		
	環境と地球	講義	●	2			2	2	専任			
	地域社会とボランティア	講義	●	2	2	2			専任	37		
外国語	英語I	講義	●	1	2				専任	96		選択必修 2単位以上
	英語II	講義	●	1		2			専任	93		
	英語III	講義	●	1			2		専任			
	英語IV	講義	●	1				2	専任			
	フランス語I	講義	●	1	2				専任	15		
	フランス語II	講義	●	1		2			専任	12		
	韓国語I	講義	●	1	2				専任	38		
	韓国語II	講義	●	1		2			専任	30		
	中国語I	講義	●	1	2				専任	25		
	中国語II	講義	●	1		2			専任	35		
ビジネス基礎	情報リテラシーI	実習	○	1	2				専任	109	○	1単位必修
	情報リテラシーII	実習	×	1		2			専任	72	○	
	ビジネス基礎	講義	×	2	2				専任	25		
	秘書実務	実習	×	1	2				専任	36		
	地域資源開発I	講義	×	2	2				専任	14		
	地域資源開発II	講義	×	2	集中				専任	6		
	地域資源開発III	講義	×	2		2			専任	4		
スポーツ	スポーツ理論及び実習I	実習	×	1	2				専任	42		
	スポーツ理論及び実習II	実習	×	1		2			専任	48		
	スポーツ理論及び実習III	実習	×	1			2		専任			
	スポーツ理論及び実習IV	実習	×	1				2	専任			
進路対策	進路対策I	講義	×	2	2				専任	100		
	進路対策II	講義	×	2		2			専任	101		
	進路対策III	講義	×	2			2		専任			
	企業実習	実習	×	2		集中			専任	13		
日留学生	日本語コミュニケーションI	講義	×	1	2				非常勤	3		
	日本語コミュニケーションII	講義	×	2		4			非常勤	6		
海外留学	海外短期留学	講義	×	4	東海大学派遣留学制度 その他の留学を含む				専任	0		
	海外中期留学	講義	×	6					専任	1		
	海外長期留学	講義	×	8					専任	0		
	海外研修(航海)	講義	×	4		集			専任	1		

両学科共通科目（2009年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤には「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	eラーニング	備考
					1	2	3	4				
現代文明論	現代文明論I	講義	○	2	2				専任	110		必修4単
	現代文明論II	講義	○	2		2			専任	106		
総合教育	現代社会と思想	講義	●	2	2	2			専任	63	○	選択必修4単以上
	文学と歴史	講義	●	2			2	2	専任	86	○	
	青年期の心理	講義	●	2	2	2			非常勤	105		
	モバイル社会と市民生活	講義	●	2	2	2			専任	84		
	経済と国際社会	講義	●	2			2	2	専任	151		
	環境と地球	講義	●	2			2	2	専任	36	○	
	情報と生活	講義	●	2			2	2	専任	59		
	地域社会とボランティア	講義	●	2	2	2			専任	34		
外国語	英語I	講義	●	1	2				専任	85		選択必修2単以上
	英語II	講義	●	1		2			専任	81		
	英語III	講義	●	1			2		専任	45		
	英語IV	講義	●	1				2	専任	29		
	フランス語I	講義	●	1	2				専任	11		
	フランス語II	講義	●	1		2			専任	9		
	韓国語I	講義	●	1	2				専任	29		
	韓国語II	講義	●	1		2			専任	19		
	中国語I	講義	●	1	2				専任	33		
中国語II	講義	●	1		2			専任	21			
ビジネス基礎	情報リテラシーI	実習	○	1	2				専任	109	○	必修1単位
	情報リテラシーII	実習	×	1		2			専任	95	○	
	ビジネス基礎	講義	×	2	2				専任	34		
	秘書実務	実習	×	1	2				専任	33		
	広報メディア論	講義	×	2			2		専任	81		
	地域資源開発I	講義	×	2	2				専任	30		
	地域資源開発II	講義	×	2	集				専任	25		
	地域資源開発III	講義	×	2		2			専任	20		
スポーツ	スポーツ理論及び実習I	実習	×	1	2				専任	34		
	スポーツ理論及び実習II	実習	×	1		2			専任	48		
	スポーツ理論及び実習III	実習	×	1			2		専任	40		
	スポーツ理論及び実習IV	実習	×	1				2	専任	27		
子どもケア	社会福祉概論	講義	×	2	2				非常勤	24		
	児童福祉	講義	×	2		2			非常勤	27		
	子どもの健康と保健	講義	×	2		2			非常勤	40		
	地域福祉	講義	×	2				2	専任	6		
進路対策	進路対策I	講義	×	2	2				専任	104		
	進路対策II	講義	×	2		2			専任	100		
	進路対策III	講義	×	2			2		専任	32		
	企業実習	実習	×	2		集			専任	5		
留学生日本語	日本語コミュニケーションI	講義	×	1	2				非常勤	6		
	日本語コミュニケーションII	講義	×	2		4			非常勤	6		
海外留学	海外短期留学	講義	×	4					専任	0		東海大学派遣留学制度 その他の留学を含む
	海外中期留学	講義	×	6					専任	0		
	海外長期留学	講義	×	8					専任	0		
	海外研修(航海)	講義	×	4		集			専任	3		

4) 今後の課題

本学が、標題として掲げてきた「学びの自由化」と「個別教育」、そして、学生に対してなるべく多くの履修モデルを提案しようとする傾向は、一方で「自由」というものをはき違えたり、また他方で、「あれもこれも」と意識が分散したりしてしまい、明確な目的や目標の下に、それに到達するために必要なものを順次学んでいくという、本来の傾向を蔑ろにしかねない結果を生じ始めている。そこで、今一度、教育の原点に立ち、カリキュラムと授業内容を見直し、本学が、今まで培った、「個別教育」の体験を生かしながら、両学科共通科目と学科専門科目とがより緊密に連携できるような改善を行うことが今後の課題である。

(2) 情報処理学科

1) 教育方針・構成

21 世紀の ICT (Information and Communication Technology / 情報通信技術) 社会では、予想をはるかに越えるスピードで社会の情報化が進んでおり、あらゆる分野のデジタル化・モバイル化・ネットワーク化が進展していく中で、新しい事業分野が創出され、産業・経済・社会を大きく変革させている。そのため、従来からの情報処理産業のみならず、事務・営業・財務・医療など、広範な領域において ICT は不可欠なものとなっている。

情報処理学科では、様々なビジネス現場において、即戦力として活躍できるだけの ICT スキルとビジネス知識の修得、及びそれらの活用力・応用力を育むことを教育の目標として、ビジネスの実務者として柔軟に対応できる人材の育成を図っている。

これを実現するために、情報処理学科では、デジタルコンテンツを表現あるいは作成する分野、エンドユーザとしてコンピュータを事務的立場で使う側の分野、コンピュータを業務推進のために活用する側の分野を中心に、3つの分野と10の履修ユニットを構成している。(両学科共通分野は除く)

情報ビジネス

情報処理分野におけるマルチメディアの進展により、現在の情報処理業界においては、一つの能力に長けた人材だけでなく、映像、音楽、プログラム、Web制作などを知識と技術をバランスよく兼ね備えた人材が求められている。そこで、CG・アニメーションでは、静止画、動画、音楽などの融合によるデジタルメディアコンテンツ制作に必要とされる基礎知識と技術を学習させている。ホームページクリエイターでは、Web制作の基礎からCMSの利用やWebプログラミングを理解させている。システムエンジニアでは、C言語を中心としたプログラミングやネットワーク技術を習得させている。ユニット毎の学習目的を明確に分けながらも、それぞれが連動した中で、融合した技術習得ができる構成としている。

卒業後の進路は、Webコンテンツ制作やその関連業務、CG関連業務や通信・情報サービス分野、システムエンジニアなど企業等での情報化推進部門やネットワーク関連業務などである。

医療・オフィス事務

オフィス事務や医療事務、企業秘書等において、事務処理業務をコンピュータで処理するための必要な基礎知識と技術は必須である。そこで、ビジネス基礎や文書作成技法、データ活用手法などを中心に学ばせ、ICT化が進むビジネス社会の中で事務的立場として企業内で活躍できる人材育成を目指している。医療現場で取り扱われる電子データ・情報の処理の基礎知識と医療事務に関する科目を設け、ICT化が進む医療の現場でも事務的な立場での活躍も期待できるよう構成している。また、秘書関連の科目を通じて、社会人として基礎的なマナーやコミュニケーションの取り方など、社会人基礎力を習得できる構成としている。

卒業後の進路は、銀行・証券会社を含む一般事務処理業務、病院での診療報酬請求業務などが期待できる。

キャリアビジネス

広報メディアスタッフ、接客・販売スタッフ、ITインストラクター等において、コンピュータを活用して各種業務をより円滑かつ効率的に運用するための必要な基礎知識と技術は、仕事をする上で重要な要素である。そこで、ビジネス基礎や流通に関する知識や経営情報分析、データ活用手法などを中心に学ばせ、ICT化が進むビジネス社会の中で即戦力として活躍できる人材育成を目指している。また、広報活動に必要な編集技術等が学べる科目等も配置し、情報ビジネス分野との連携を図るなど、多様な分野に対応できるよう配慮している。

卒業後の進路は、広告業界や印刷関連業務、各種接客販売業務などが期待できる。

<重点補助教育講座>

初級システムアドミニストレータ試験、日商P C検定（文書作成）、日商P C検定（データ活用）、日商簿記検定、カラーコーディネータ検定、CG検定、マルチメディア検定

2) カリキュラム

a. 開講科目（学科専門科目）一覧 学科専門科目（2010年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤には「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	eラーニング	備考	
					1	2	3	4					
情報共通	情報基礎	講義	○	2	2				専任	35		○単位必修	
	情報総合演習I	演習	○	2	2				専任	35			
	情報総合演習II	演習	○	2		2			専任	42			
	情報総合演習III	演習	×	2			2		専任				
	メディアリテラシー	講義	●	2	2				専任	12			選択必修 2単位以上
	インターネット基礎	講義	●	2	2				専任	50			
	プログラミング基礎	講義	●	2		2			専任	26	○		
	ビジネス情報	講義	●	2			2		専任				
	基礎数学	講義	×	2			2		専任				
情報実務	情報処理I	講義	×	2	2				専任	26	○		
	情報処理II	講義	×	2		2			専任	13	○		
	アルゴリズム	講義	×	2		2			専任	8	○		
	プログラミングI	実習	×	1			2		専任		○		
	プログラミングII	実習	×	1				2	専任		○		
	コンピュータネットワーク	講義	×	2		2			専任	30			
	コンピュータシステム	講義	×	2	2				専任	14	○		
	インターネット実習I	実習	×	1		2			専任	21			
	インターネット実習II	実習	×	1			2		専任				
	データベース	講義	×	2		2			専任	12			
	2次元CG制作	実習	×	1	2				専任	12			
	3次元CG制作I	実習	×	2		4			専任	11			
	3次元CG制作II	実習	×	2			4		専任				
	デジタルデッサン	講義	×	2			2		非常勤				
	アニメーション	実習	×	2		4			専任	12			
	カラーコーディネーション	講義	×	2	2				専任	49			
	ゲームデザイン	講義	×	2				2	専任				
	コンピュータ応用リテラシー	講義	×	2				2	専任				
	CAD	講義	×	2			2		専任				
	CAD実習	実習	×	1				2	専任				
オフィス実務	経営基礎論	講義	×	2			2		専任				
	マーケティング	講義	×	2			2		専任				
	簿記原理I	講義	×	2	2				専任	24			
	簿記原理II	講義	×	2		2			専任	25			
	簿記演習I	演習	×	2	2				専任	22			
	簿記演習II	演習	×	2		2			専任	22			
	オフィス事務	講義	×	2			2		専任				
	プレゼンテーション	講義	×	2	2				専任	3			
	インターネットビジネス	講義	×	2		2			専任	16			
	編集基礎	講義	×	2				2	専任				
	医事コンピュータ	講義	×	2			2		非常勤				
	医療事務I	講義	×	2	2				非常勤	27			
	医療事務II	講義	×	4		4			非常勤	24			
	データ活用	講義	×	2			2		専任				
IT教育法	講義	×	2				2	専任					
ゼミナール	総合ゼミナールI	演習	○	1	2				専任	35		4単位必修	
	総合ゼミナールII	演習	○	1		2			専任	36			
	総合ゼミナールIII	演習	○	1			2		専任				
	総合ゼミナールIV	演習	○	1				2	専任				
	専門ゼミナールI	演習	●	2	2				専任	33	一部○		
	専門ゼミナールII	演習	●	2		2			専任	38	一部○		
	専門ゼミナールIII	演習	●	2			2		専任				
	専門ゼミナールIV	演習	●	2				2	専任				

学科専門科目（2009年度生）

科目の種類別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター <small>(開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は「集」と記載)</small>				教員配置 <small>(兼担非常勤には「※」マーク)</small>	受講者数 <small>(セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)</small>	eラーニング	備考
					1	2	3	4				
情報共通	情報基礎	講義	○	2	2				専任	46		
	情報総合演習I	演習	○	2	2				専任	54		
	情報総合演習II	演習	○	2		2			専任	58		
	情報総合演習III	演習	×	2			2		専任	34		
	メディアリテラシー	講義	●	2	2				専任	15		
	インターネット基礎	講義	●	2	2				専任	24		
	プログラミング基礎	講義	●	2		2			専任	37	○	
	ビジネス情報	講義	●	2			2		専任	41		
	線形代数学I	講義	×	2	2				専任	6		
	線形代数学II	講義	×	2		2			専任	5		
	微分積分学I	講義	×	2	2				専任	3		
	微分積分学II	講義	×	2		2			専任	4		
情報実務	情報処理I	講義	×	2	2				専任	30	○	
	情報処理II	講義	×	2		2			専任	20	○	
	アルゴリズム	講義	×	2		2			専任	6	○	
	プログラミングI	実習	×	1			2		専任	8	○	
	プログラミングII	実習	×	1				2	専任	4	○	
	コンピュータネットワーク	講義	×	2		2			専任	23		
	コンピュータシステム	講義	×	2	2				専任	19	○	
	インターネット実習I	実習	×	1		2			専任	9		
	インターネット実習II	実習	×	1			2		専任	11		
	データベース	講義	×	2		2			専任	18		
	2次元CG制作	実習	×	1	2				専任	17		
	3次元CG制作I	実習	×	2	4				専任	8		
	3次元CG制作II	実習	×	2		4			専任	9		
	メディアシステム	講義	×	2		2			専任	14		
	デジタルデッサン	講義	×	2			2		非常勤	36		
	アニメーション	実習	×	2				4	専任	12		
	カラーコーディネーション	講義	×	2	2				非常勤	59		
	ゲームデザイン	講義	×	2				2	専任	12		
	コンピュータ応用リテラシー	講義	×	2				2	専任	4		
	CAD	講義	×	2			2		専任	21		
CAD実習	実習	×	1				2	専任	4			
オフィス実務	経営基礎論	講義	×	2				2	専任	16		
	マーケティング	講義	×	2			2		専任	18		
	簿記原理I	講義	×	2	2				専任	35		
	簿記原理II	講義	×	2		2			専任	25		
	簿記演習I	演習	×	2	2				専任	31		
	簿記演習II	演習	×	2		2			専任	23		
	ビジネス文書作成技法	講義	×	2		2			非常勤	14		
	オフィス事務	講義	×	2			2		非常勤	20		
	プレゼンテーション	講義	×	2	2				専任	14		
	インターネットビジネス	講義	×	2		2			専任	9		
	編集基礎	講義	×	2				2	専任	10		
	医療情報	講義	×	2		2			非常勤	25		
	医療事務	講義	×	4		4			非常勤	30		
	データ活用	講義	×	2			2		専任	24		
IT教育法	講義	×	2				2	専任	10			
ゼミナール	総合ゼミナールI	演習	○	1	2				専任	45		
	総合ゼミナールII	演習	○	1		2			専任	36		
	総合ゼミナールIII	演習	○	1			2		専任	39		
	総合ゼミナールIV	演習	○	1				2	専任	37		
	専門ゼミナールI	演習	×	2	2				専任	14	一部○	
	専門ゼミナールII	演習	×	2		2			専任	40	一部○	
	専門ゼミナールIII	演習	×	2			2		専任	39		
	専門ゼミナールIV	演習	×	2				2	専任	23		

必修10単位
選択必修2単位以上

b. 履修可能科目および卒業要件について

情報処理学科に所属する学生は、情報処理学科の学科専門科目のほか、項目（1）で挙げた両学科共通科目を履修できる。また、国際文化学科の学科専門科目についても、原則として履修できる。このほか、1・2セメスターの学生が、3・4セメスターの科目を受講することは原則として認めない。

卒業要件としては、両学科共通科目および学科専門科目に設定された必修科目（必選別に○マークのある科目）を全て合格し、かつ、選択必修科目（必選別に●マークのある科目）の条件を満たし、合計で62単位以上の単位を取得することである。ただし、国際文化学科の学科専門科目については、卒業要件として最大で20単位までしか認めない。

3) 現状評価、問題点・課題と教育課程の見直し・改善

入学目的、学習歴、学習目的、将来像など多様化する学生に対応し、より効果のある教育を行うために科目の見直しを図りながら幅広い履修希望に応じてきた。

特に2009年度以降、資格取得の柱として「情報総合演習」を必修科目として設置し、本学科に所属する全学生に対して支援を強化する体制を構築した。これに伴い、各科目の内容も見直しを図った。また、情報系国家資格である基本情報技術者試験については、午前試験免除の申請を行い、学生がより受験しやすい環境を整えた。

この成果として、資格取得に対する意欲向上が見受けられ、より高い級への挑戦者や合格者の増へ繋げることができた。しかし、資格による検定受験者の偏りや、「情報総合演習」の中で未対応の資格に挑戦する学生がほとんど見受けられないなど、今後改善すべき問題点がある。また、「情報総合演習」で対応している資格については、それに頼りすぎる傾向があり、授業以外での自己学習の不足が目についた。

コンピュータ関連授業では、現在の社会が個々のデジタル機材あるいはコンテンツを扱うだけの能力ではなく、それらを総合的かつ能動的に活用できる能力を求めている。これに対し、現在のカリキュラム体制では、これを実現できる状況になく、社会が求める人材育成に向けた新たな情報教育の展開が必要な時期に迫られている。

(3) 国際文化学科

1) 教育方針・構成

国際文化学科は開設以来、「世界の文化圏を理解し、国際的な諸問題に対応することを目的に、語学、情報分析、異文化対応能力を養い、また、観光や国際ビジネスなどの専門実務に対応できる人材を育成する」ことを教育方針に掲げている。しかし、社会情勢及び短期大学を取り巻く環境の変化に対応し、時代のニーズに応える人材の育成という今日的な課題に取り組むため、国際文化学科としては開設の精神を継承しながら、広く体験型のプログラムを取り入れることにより、「実践的かつ応用力に優れた人材の輩出」をめざして、教育体制の再構築を図っている。

具体的には、専門分野として「観光ビジネス分野」、「英語・韓国語・中国語分野」、「スポーツ・地域交流分野」の3分野を置くとともに、情報処理学科との共通分野として「特別編入分野」を設置している。これらの分野は、それぞれがその分野の中で完結するのではなく、観光や地域交流等に関心のある学生には、同時に語学の中から必ず一つから二つを選び、しっかり学習することで、国際社会に相応しい社会人としての教養を身に付けると共に、アジアの玄関口である福岡の地で外国人をもてなす力を身に付けるように指導している。

また、どの分野においても、インターネットなどICTスキルを身につける実践的な教育が重点的に行われるほか、語学は、英語を中心に、韓国語や中国語の専門科目を数多く配置し、それぞれの外国語に対して本学主催の短期留学制度を設けることで、現地での体験を活用しながら学べる体制を整えている。特に、韓国語に対しては、釜山の東義科学大学との交換留学制度も活用できる。

また、東海大学及び一般の四年制大学へ編入を希望する学生にはゼミでの指導の他に、希望の編入先に合わせてクラス分けされた「進路対策」の科目を設定し、編入指導の効果を高めるように配慮している。各種資格試験対策については、学科共通に展開されており、選択した分野に関わらず、誰もが積極的にチャレンジできるようになっている。

観光ビジネス分野

国際化の進展や、インターネット活用の本格化は、観光分野にも大きな変革を迫っている。本学は、観光のそれぞれの現場で働く中堅スタッフとして、旅行スタッフ、航空スタッフ、ホテルスタッフ、ツアーコンダクター等の人材の輩出を視野に入れた教育を行っている。そのために、英語をはじめとする、アジアの言語を習得することを奨励すると共に、観光産業に不可欠な実践的な知識や技能を身に付ける授業を展開している。また、現代という時代に対応した観光スタッフとして、国際社会や情報社会の必須アイテムであるインターネットやパソコンを駆使して、ビジネスに必要な専門知識、さらには環境保護のような 21 世紀が直面する課題に至るまで、幅広く学ぶことができるように配慮している。資格に関しても、観光産業で必要とされる総合・国内旅行業務取扱管理者など資格取得のための講座も開設していると共に、ツアーコンダクターに必要な資格である旅程管理主任に対する講座も、指定講習機関の協力を得て実施している。この様に、本学は、新しい時代の観光をになう若い人材の育成を目指している。

また、地域ツーリズムという、観光を通じて地域の活性化を図り、地域環境の保全を図ろうとする観光の新たな姿への対応も準備している。今後の、観光による地域振興には、観光産業をはじめ、地域住民、旅行者などさまざまな立場の人が協力して、地域ツーリズムを推進する継続的な努力が必要である。本分野では、地域社会の現状と課題を学び、課題を克服する手段としての観光の役割も学習する。

英語・韓国語・中国語分野

本学は、本学が立地する福岡がアジアの東の拠点であると考え、特にこの 3 カ国語を強化している。アジアの国々とのこれからさらに一層の交流拡大が予想される中、まず挨拶程度の初級レベルから上級レベルに至るまで、徹底して学べる環境を準備している。また、英語は、世界の公用語として不可欠であるだけでなく、圧倒的多数の外国人とコミュニケーションを取る手段として最も有効である、という点から更なるブラッシュアップする機会を準備している。当然ではあるが、外国の文化や国際コミュニケーションに興味をもち、国際社会で活躍したい人にとって、語学の上達には、生きた環境の中で、その国の文化に接しながら学ぶことが一番の近道である。そのため、ネイティブスピーカーによるきめ細かい指導により、それぞれの言語のレベルアップを図れるようにカリキュラムが工夫されている。

また、留学制度も豊富である。英語に関しては、米国政府から認可されたハワイ東海インターナショナルカレッジでの語学研修などを通じて、実践的な英語を習得できる機会を設定している。韓国語に関しては、東義科学大学への 2 週間の短期留学と一セメスターの交換留学、そして、中国語に関しては、北京第二外国語学院への短期留学を設定しているが、それだけでなく、さらに東海大学が提携する海外の大学への留学の道も開かれている。

卒業後の進路としては、一般企業をはじめ、外資系企業、航空・運輸業、出版業、秘書など広い分野で活躍できる国際性豊かな人材の育成を目標にしている。

スポーツ・地域交流分野

社会の成熟化に伴い、生活の質を高めるスポーツ・レジャーの役割が注目されており、企業や地域社会のリーダーとして活躍できる人材育成を行うと共に、高齢化社会の到来により、高齢者がスポーツを通して健康増進を図り、健康や体力の維持を図る生涯スポーツの理念も一般化してきたことを受け、それに対応する人材の育成も行い。また、スポーツ指導者をめざす学生が増加していることから、東海大学との関係を強化し、体育学部への編入を視野に入れた教育指導も行っている。

また、今世紀に入り、高齢化や過疎化の進展により、地域の衰退が緊急の課題として浮上しているが、その中で、福祉やボランティアなど社会貢献型の活動を理解し、積極的に参加する人材や、行政の視点ではなく住民の視点から、まちづくりを積極的に推進する NPO（非営利団体）などに従事する人材が

望まれている。この分野では、これらの活動を実践的に学び、将来的には地域の活性化に積極的に関わる人材の育成をめざしている。まちづくりは、観光や生涯スポーツなどとも密接に関係しており、この履修分野をコアに、国際文化学科の特性を生かし、複合的な社会の要請に対応できる人材の養成を目指している。

2) カリキュラム

a. 開講科目（学科専門科目）一覧 学科専門科目（2010年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は「集」と記載)				教員配置 (専任非常勤)には「※」マーク	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	eラーニング	備考
					1	2	3	4				
国際文化共通	国際文化論	講義	●	2	2				専任	38		選択必修6単位以上
	異文化交流論	講義	●	2			2		専任			
	比較文化論	講義	●	2				2	専任		○	
	ヨーロッパ文化圏地域研究	講義	●	2				2	専任			
	アメリカ文化圏地域研究	講義	●	2				2	専任			
	ハワイ文化圏地域研究	講義	●	2	2				専任	51		
	韓国文化圏地域研究	講義	●	2		2			専任	38		
	中国文化圏地域研究	講義	●	2		2			専任	48		
観光ビジネス	観光学概論I	講義	×	2	2				専任	23		
	観光学概論II	講義	×	2		2			専任	11		
	旅行業法規	講義	×	2	2				専任	37		
	ツーリズム演習	演習	×	2	2				専任	18		
	ホテルビジネス	講義	×	2	2				専任	46		
	ツアーコンダクター	講義	×	2		2			専任	48		
	エアラインビジネス	講義	×	2		2			専任	37		
	国内観光地理	講義	×	2	2				専任	37		
	海外観光地理	講義	×	2			2		専任			
	エコツーリズム論	講義	×	2			2		専任			
	観光メディア論	講義	×	2				2	専任			
	観光マーケティング	講義	×	2		2			専任	39		
	観光英語I	講義	×	1			2		専任			
	観光英語II	講義	×	1				2	専任			
	観光韓国語I	講義	×	1			2		専任			
	観光韓国語II	講義	×	1				2	専任			
	観光中国語I	講義	×	1			2		専任			
観光中国語II	講義	×	1				2	専任				
英語・韓国語・中国語	英語コミュニケーションI	講義	×	1	2				非常勤	54		
	英語コミュニケーションII	講義	×	1		2			非常勤	27		
	リーディング・スキルI	講義	×	1		2			専任	21		
	リーディング・スキルII	講義	×	1			2		専任			
	英検I	講義	×	1	2				専任	38		
	英検II	講義	×	1		2			専任	36		
	英検III	講義	×	1			2		専任			
	英検IV	講義	×	1				2	専任			
	TOEIC I	講義	×	1	2				非常勤	13		
	TOEIC II	講義	×	1		2			専任	18		
	韓国語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	23		
	韓国語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	21		
	韓国語コミュニケーションIII	講義	×	1			2		専任			
	韓国語コミュニケーションIV	講義	×	1				2	専任			
	中国語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	24		
	中国語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	21		
	中国語コミュニケーションIII	講義	×	1			2		専任			
中国語コミュニケーションIV	講義	×	1				2	専任				
スポーツ・地域交流	ハワイ短期留学	講義	×	2	集中				専任	13		
	韓国短期留学	講義	×	2	集中				専任	7		
	中国短期留学	講義	×	2		集中			専任	15		
	スポーツ・レジャー論	講義	×	2	2				専任	11		
	スポーツ・レジャー・マネージメント	講義	×	2		2			専任	25		
	生涯スポーツ	講義	×	2			2		専任			
	野外活動理論及び実習I	実習	×	1			2		専任			
	野外活動理論及び実習II	実習	×	1				2	専任			
	スポーツ科学論	講義	×	2			集中		非常勤※			
	スポーツ・ヘルス	講義	×	2				2	非常勤			
	救急処置法	講義	×	2			集中		非常勤※			
	地域サービス論	講義	×	2	2				専任	4		
	まちづくりNPO論	講義	×	2		2			専任	9		
まちづくりNPO演習	演習	×	2			2		専任				
地域福祉	講義	×	2				2	専任				
ゼミナール	総合ゼミナールI	演習	○	1	2				専任	66	4単位必修 選択必修4単位以上	
	総合ゼミナールII	演習	○	1		2			専任	64		
	総合ゼミナールIII	演習	○	1			2		専任			
	総合ゼミナールIV	演習	○	1				2	専任			
	専門ゼミナールI	演習	●	2	2				専任	73		
	専門ゼミナールII	演習	●	2		2			専任	66		
	専門ゼミナールIII	演習	●	2			2		専任			

学科専門科目（2009年度生）

科目の種類	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤には「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	eラーニング	備考
					1	2	3	4				
国際文化共通	国際文化論	講義	●	2	2				専任	47		
	異文化交流論	講義	●	2			2		専任	41		
	比較文化論	講義	●	2				2	専任	34	○	
	ヨーロッパ文化圏地域研究	講義	●	2				2	専任	21		
	アメリカ文化圏地域研究	講義	●	2				2	専任	50		
	ハワイ文化圏地域研究	講義	●	2	2				専任	47		
	韓国文化圏地域研究	講義	●	2		2			専任	47		
	中国文化圏地域研究	講義	●	2		2			専任	37		
観光ビジネス	観光原論	講義	×	2	2				専任	42		
	旅行業法規	講義	×	2	2				専任	37		
	ツーリズムビジネス	講義	×	2		2			専任	58		
	ツーリズム演習	演習	×	2	2				専任	34		
	ホテルビジネス	講義	×	2	2				専任	50		
	ツアーコンダクター	講義	×	2		2			専任	32		
	エアラインビジネス	講義	×	2		2			専任	49		
	国内観光地理	講義	×	2	2				専任	41		
	海外観光地理	講義	×	2			2		専任	36		
	エコツーリズム論	講義	×	2			2		専任	14		
	観光メディア論	講義	×	2				2	専任	55		
	観光マーケティング	講義	×	2		2			専任	30		
	アジア観光研究	講義	×	2			2		非常勤	19		
	観光英語I	講義	×	1			2		専任	11		
	観光英語II	講義	×	1				2	専任	11		
	観光韓国語I	講義	×	1			2		専任	17		
	観光韓国語II	講義	×	1				2	専任	1		
	観光中国語I	講義	×	1			2		専任	8		
	観光中国語II	講義	×	1				2	専任	9		
	英語・韓国語・中国語	英語コミュニケーションI	講義	×	2	4				非常勤	32	
英語コミュニケーションII		講義	×	2		4			非常勤	29		
リーディング・スキルI		講義	×	1		2			専任	13		
リーディング・スキルII		講義	×	1			2		専任	4		
英検I		講義	×	1	2				非常勤	41		選択 必修 6単位 以上
英検II		講義	×	1		2			非常勤	26		
英検III		講義	×	1			2		専任	11		
英検IV		講義	×	1				2	非常勤	5		
TOEIC I		講義	×	1	2				非常勤	32		
TOEIC II		講義	×	1		2			非常勤	12		
ビジネス英語I		講義	×	1			2		専任	2		
ビジネス英語II		講義	×	1				2	専任	2		
韓国語コミュニケーションI		講義	×	2	4				専任	17		
韓国語コミュニケーションII		講義	×	2		4			専任	12		
韓国語コミュニケーションIII		講義	×	1			2		専任	9		
韓国語コミュニケーションIV		講義	×	1				2	専任	15		
中国語コミュニケーションI		講義	×	2	4				専任	11		
中国語コミュニケーションII		講義	×	2		4			専任	5		
中国語コミュニケーションIII		講義	×	1			2		専任	6		
中国語コミュニケーションIV		講義	×	1				2	専任	8		
ハワイ短期留学	講義	×	2	集				専任	7			
韓国短期留学	講義	×	2	集				専任	8			
中国短期留学	講義	×	2		集			専任	6			
地域交流・スポーツ	スポーツ・レジャー論	講義	×	2	2				専任	11		
	スポーツ・レジャーマネジメント	講義	×	2		2			専任	17		
	生涯スポーツ	講義	×	2			2		専任	31		
	野外活動理論及び実習I	実習	×	1			2		専任	17		
	野外活動理論及び実習II	実習	×	1				2	専任	5		
	スポーツ科学論	講義	×	2			集		非常勤※	11		
	スポーツ・ヘルス	講義	×	2				2	非常勤	14		
	救急処置法	講義	×	2			集		非常勤※	28		
	地域サービス論	講義	×	2	2				専任	7		
	まちづくりNPO論	講義	×	2		2			専任	15		
ゼミナール	まちづくりNPO演習	講義	×	2			2		専任	8		
	総合ゼミナールI	演習	○	1	2				専任	63		
	総合ゼミナールII	演習	○	1		2			専任	63		
	総合ゼミナールIII	演習	○	1			2		専任	62		
	総合ゼミナールIV	演習	○	1			2		専任	60		

b. 履修可能科目および卒業要件について

国際文化学科に所属する学生は、国際文化学科の学科専門科目のほか、項目（1）で挙げた両学科共通科目を履修できる。また、情報処理学科の学科専門科目についても、原則として履修できる。このほか、1・2セメスターの学生が、3・4セメスターの科目を受講することは原則として認めない。

卒業要件としては、両学科共通科目および学科専門科目に設定された必修科目（必選別に○マークのある科目）を全て合格し、かつ、選択必修科目（必選別に●マークのある科目）の条件を満たし、合計で62単位以上の単位を取得することである。情報処理学科の学科専門科目については、卒業要件として最大で20単位まで認められる。

3) 現状評価、問題点・課題と教育課程の見直し・改善

少子化の進行により、大学や短大の入学者の減少が社会問題として注目されており、とりわけ、短期大学では語学系や一般教養系の苦戦が目立っているが、本学国際文化学科も例外ではない。こうした社会環境の変化のなかで、四年制大学においても実務教育の重要性が声高に叫ばれている今日、教育のあり方について、根本的に考え直す時期に来ていると思われる。国際文化学科では、こうした認識から、社会が必要とする実践的な能力の向上という視点で科目編成の見直しを図り、何を学ぶのかを明確にしたうえで、学生一人ひとりにあったカリキュラムを履修できるように工夫すると共に、徹底した個別教育を実践している。

2010年度では、従来、本学が実施してきた多様な履修モデルの設定、それによって学生一人ひとりにより多くの可能性を選択させるという方針による弊害も考慮して、まず二年間で社会人として不可欠な能力を身に付けるために、教養教育と専門教育の位置付けを明確化し、学生がしっかりした基礎の上に土台作りを行うことを支援する教育方針へと転換した。将来、どのような業務に携わろうとも、基礎となる、語学やICT技術の他に、ヒューマンスキルであるコミュニケーション力等を身に付けておくことが、今日のような流動性の高い社会では必要であるという認識の下、徹底的に人間力を身に付ける教育を行うために、本学の個別教育を活用した。しかし、簡単にこの様な転換が為し得るわけではないし、社会にでる際には専門職系の学科が有利であることに変わりはない。今後、一層、学科内でPDCA（plan-do-check-act）のサイクルを意識しながら、学生一人ひとりに最適化した教育システムの確立を図るために、更なる改善に向けて努力したい。

以上のように本学科では学科改革に意欲的に取り組み、社会環境の変化に適切に対応した学科運営に力を入れているが、国際文化学科という学科の性質上、専門分野が広く、社会のニーズに十分に対応するためには、専任教員のみでは対応できず、外部の専門家の協力が必要である。わが国の短期大学の置かれた現状から考えると、今後他の短期大学や高等教育機関との連携をさらに深め、よりいっそう充実した教育システムを構築する必要がある。

(4) 学年暦

2010年	4月	3日(土)	入学式(13時)	
		5日(月)		
		6日(火)		
		7日(水)	春学期オリエンテーション・ウィーク	
		8日(木)		
		9日(金)		
		12日(月)	春学期授業開始	
	7月	23日(金)	月曜授業充当日、春学期授業終了	
		24日(土)		
		26日(月)	春学期補講期間	
		27日(火)		
		28日(水)		
		29日(木)	春学期定期試験(追試験 8/2、8/3)	
		30日(金)		
		31日(土)		
	8月	4日(水)	夏期休暇(～9/21)、サマーセッション(～9/1)	
		上旬～中旬	韓国短期留学(予定)	
	9月	2日(木)	短期大学(部)スポーツ大会(9/1出発、9/3帰福)	
		上旬～中旬	ハワイ短期留学(予定)	
		22日(水)	9月学位授与式、秋学期入学式	
		24日(金)	秋学期ガイダンス	
		27日(月)	秋学期授業開始	
	11月	1日(月)	建学祭準備(11/1)・建学記念式典(11/3)	
		4日(木)	建学祭(11/2、11/3)、建学祭後片づけ(11/4)	
	12月	22日(水)	冬期休暇前授業終了	
		23日(木)	冬期休暇(～1/10)	
	2011年	1月	11日(火)	冬期休暇後授業再開
			26日(水)	月曜授業充当日
27日(木)			秋学期授業終了	
28日(金)				
29日(土)			秋学期補講期間	
31日(月)				
2月		1日(火)	秋学期定期試験(追試験 2/5、2/7)	
		2日(水)		
		3日(木)		
		4日(金)		
		8日(火)	ウィンターセッション(～3/4)	
		下旬～3月上旬	中国短期留学(予定)	
3月		8日(火)	卒業ガイダンス	
		20日(日)	学位授与式・卒業記念パーティー	

(5) 時間割

5月1日現在

2010年度授業時間割 情報処理科 (B0生) 第1 Semester

● () 内の、記号は○:必修 ●:選択必修 ×:選択、数字は単位数を表しています。
●赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

時限	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	6時限目
曜日	9:00~10:20	10:30~11:50	12:40~14:00	14:10~15:30	15:40~17:00	17:10~18:30
月	ビジネス基礎 (×2) 0022A 竹内 1406	英語I (●1) 9483A 神山 LL 9483B 吉岡 1303 9483C 赤井 1304 9483D 岡崎 1302	インターネット基礎 (●2) 0906A 八尋 第1実習室	スポーツ理論及び実習I (×1) 0410A 北濱 コモンホール 他	2次元CG制作 (×1) 0501A 伊津 第2実習室	
火	情報基礎 (○2) 0603A 矢原 ゼミ室2・3	経済と国際社会 (●2) 9939A 貝田 2502 地域社会とボランティア (●2) 0701A 竹内 1406	総合ゼミナールI (○1) 0632A 齋藤 0632B 宮川 0632C 矢原 0632D 八尋 各研究室	簿記原理I (×2) 9969A 佐竹 第1実習室	簿記演習I (×2) 9965A 佐竹 第1実習室	
水	韓国語I (●1) 0716A 伊原 1307 情報処理I (×2) 9946A 宮川 2501	情報総合演習I (○2) 0903A 伊津 1306 0903B 佐竹 ゼミ室2・3 0903C 末松 第2実習室 0903D 宮川 第4実習室 0903E 矢原 第1実習室	秘書実務 (×1) 947JA 赤井 1307	医療事務I (×2) 1002A 古賀 1305	カラーコーディネーション (×2) 0015A 飯田 1303	
木	青年期の心理 (●2) 944HA 中島 1406 コンピュータシステム (×2) 0811A 宮川 第4実習室	進路対策I (×2) 0035A 齋藤、宮内、矢原、真下 2502 他	専門ゼミナールI (●2) 0636A 伊津 第2実習室 0636B 末松 研究室 0636D 宮川 2501 0636E 矢原 第1実習室	現代文明論I (○2) 941DA 伊津、末松、神山、北濱 2502	プレゼンテーション (×2) 9924A 末松 第1, 2実習室 中国語I (●1) 9953A チョウ 1304	
金	情報リテラシーI (○1) 0219A 矢原、徳永、末松 第1, 2実習室	メディアリテラシー (●2) 0029A 伊津 2502	地域資源開発I (×2) 0801A 竹内 1307 フランス語I (●1) 9920A 真下 視聴覚	現代社会と思想 (●2) 9940A 真下 1406 日本語コミュニケーションI (×1) 0122A 塩川 1306		
集中	地域資源開発II (×2) 0802A 竹内 海外短期留学 (×4) 東海大学派遣留学制度他 海外中期留学 (×6) 東海大学派遣留学制度他 海外長期留学 (×8) 東海大学派遣留学制度他					

●履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。
●実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2010年度授業時間割 国際文化学科 (B0生) 第1 Semester

● () 内の、記号は○: 必修 ●: 選択必修 ×: 選択、数字は単位数を表しています。

●赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

曜日	1時限目 9:00~10:20	2時限目 10:30~11:50	3時限目 12:40~14:00	4時限目 14:10~15:30	5時限目 15:40~17:00	6時限目 17:10~18:30
月	英語コミュニケーションI (×1) 0031B クルーズ 1304 ----- ビジネス基礎 (×2) 0022A 竹内 1406	英語I (●1) 9483A 神山 LL 9483B 吉岡 1303 9483C 赤井 1304 9483D 岡崎 1302	韓国語コミュニケーションI (×2) 0831A 伊原 第4実習室 ※週2コマ【木1】開講	中国語コミュニケーションI (×2) 9958A チョウ 1304 ※週2コマ【金4】開講	スポーツ理論及び実習I (×1) 0410B 北濱 コモンホール 他	
火	ツーリズム演習 (×2) 0819A 宮内、大方 第4実習室 ----- スポーツ・レジャー論 (×2) 0309A 北濱 1307	経済と国際社会 (●2) 9939A 貝田 2502 ----- 地域社会とボランティア (●2) 0701A 竹内 1406	総合ゼミナールI (○1) 0632E 大方 0632F 神山 0632G 竹内 0632H 真下 0632I 宮内 各研究室	英検I (×1) 0825A 神山 1305 0825B 玉置 1302	TOEIC I (×1) 0829B 玉置 1302 ----- 国際文化論 (●2) 942EA 真下 1307	
水	英語コミュニケーションI (×1) 0031A 玉置 1302 ----- 韓国語I (●1) 0716A 伊原 1307	ハワイ文化圏地域研究 (●2) 0115A 吉岡 1406 ----- ホテルビジネス (×2) 0820A 宮内 1305	秘書実務 (×1) 947JA 赤井 1307	観光学概論I (×2) 1004A 宮内 1305		
木	青年期の心理 (●2) 944HA 中島 1406 ----- 韓国語コミュニケーションI (×1) 0831A 伊原 1307 ※週2コマ【月3】開講	進路対策I (×2) 0035A 齋藤、宮内、矢原、真下 2502 他	専門ゼミナールI (●2) 0636F 赤井 1306 0636G 伊原 1307 0636H 大方 研究室 0636I 北濱 研究室 0636J 竹内 研究室 0636K チョウ 研究室 0636L 真下 研究室 0636M 宮内 研究室	現代文明論I (○2) 941DA 伊津、末松、神山、北濱 2502	国内観光地理 (×2) 0216A 大方 1307 ----- 中国語I (●1) 9953A チョウ 1304	
金	旅行業法規 (×2) 0125A 大方 1406	情報リテラシーI (○1) 0219B 矢原、徳永、末松 第1, 2実習室	地域資源開発I (×2) 0801A 竹内 1307 ----- フランス語I (●1) 9920A 真下 視聴覚	現代社会と思想 (●2) 9940A 真下 1406 ----- 中国語コミュニケーションI (×1) 9958A チョウ 1304 ※週2コマ【月4】開講 日本語コミュニケーションI (×1) 0122A 塩川 1306	地域サービス論 (×2) 0816A 竹内 1307	

集中	地域資源開発II (×2)	0802A 竹内
	ハワイ短期留学 (×2)	神山
	韓国短期留学 (×2)	伊原
	海外短期留学 (×4)	東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学 (×6)	東海大学派遣留学制度他
海外長期留学 (×8)	東海大学派遣留学制度他	

●履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

●実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2010年度授業時間割 情報処理科 (B0生) 第2セメスター

● () 内の、記号は○:必修 ●:選択必修 ×:選択、数字は単位数を表しています。

●赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

時限	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	6時限目
曜日	9:00~10:20	10:30~11:50	12:40~14:00	14:10~15:30	15:40~17:00	17:10~18:30
月	コンピュータネットワーク (×2) 0016J 八尋 第4実習室	英語II (●1) 9486J 神山 LL 9486K 吉岡 1303 9486L 赤井 1304 9486M 岡崎 1306	アニメーション (×2) 0111J 貝田 第2実習室		データベース (×2) 9448J 徳永 第2実習室	
				スポーツ理論及び実習II (×1) 0411J 北濱 コモンホール 他		
火	3次元CG制作I (×2) 0629J 伊津 第2実習室		総合ゼミナールII (○1) 0633A 齋藤 0633B 宮川 0633C 矢原 0633D 八尋 各研究室	簿記原理II (×2) 0039J 佐竹 第1実習室	簿記演習II (×2) 9966J 佐竹 第1実習室	□
水	韓国語II (●1) 0717J 伊原 1307	情報総合演習II (○2) 0904J 佐竹 1306 0904K 宮川 第4実習室 0904L 矢原 第1実習室 0904M 八尋 第2実習室	経済と国際社会 (×2) 9939J 貝田 1406		医療事務II (×4) 1003J 古賀 1305	
	プログラミング基礎 (●2) 0907J 矢原 第1実習室			情報処理II (×2) 9947J 宮川 1307		
木	青年期の心理 (●2) 944HJ 中島 1406	進路対策II (×2) 0318J 齋藤、宮内、矢原、真下、宮川 2502 他	専門ゼミナールII (●2) 0637A 伊津 第2実習室 0637B 末松 研究室 0637C 徳永 研究室 0637D 宮川 2501 0637E 八尋 研究室	現代文明論II (○2) 942DJ 伊津、末松、神山、北濱 2502	インターネット実習I (×1) 9970J 八尋 第1実習室	
	アルゴリズム (×2) 9419J 宮川 2501				中国語II (●I) 9954J チョウ 1304	
金	情報リテラシーII (×1) 0220J 矢原、徳永、末松 第1, 2実習室	現代社会と思想 (●2) 9940J 真下 1406	インターネットビジネス (×2) 0112J 伊津、非常勤 2502	フランス語II (●I) 9921J 真下 視聴覚		
	地域社会とボランティア (●2) 0701J 竹内 2501		地域資源開発III (×2) 0803J 竹内 1406	日本語コミュニケーションII (×2) 0225J 塩川 1307		
集中	企業実習 (×2) 齋藤、宮内					
	海外短期留学 (×4) 東海大学派遣留学制度他					
	海外中期留学 (×6) 東海大学派遣留学制度他					
	海外長期留学 (×8) 東海大学派遣留学制度他					
	海外研修(航海) (×4)					

●履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

●実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2010年度授業時間割 国際文化学科 (B0生) 第2セメスター

● () 内の、記号は○:必修 ●:選択必修 ×:選択、数字は単位数を表しています。

●赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

時限	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	6時限目
曜日	9:00~10:20	10:30~11:50	12:40~14:00	14:10~15:30	15:40~17:00	17:10~18:30
月	英語コミュニケーションII (×1) 0032K クルーズ 1304	英語II (●1) 9486J 神山 LL 9486K 吉岡 1303 9486L 赤井 1304 9486M 岡崎 1306	中国語コミュニケーションII (×2) 9959J チョウ 1304 ※週2コマ【木1】開講	リーディング・スキルI (×1) 0909J 神山 1302 0909K 赤井 1306	スポーツ理論及び実習II (×1) 0411K 北濱 コモンホール 他	
火	観光マーケティング (×2) 0315J 大方 1406	韓国語コミュニケーションII (×2) 0832J 伊原 第4実習室 ※週2コマ【金1】開講 スポーツ・レジャーマネジメント (×2) 0408J 北濱 1307	総合ゼミナールII (○1) 0633E 大方 0633F 神山 0633G 竹内 0633H 真下 0633I 宮内 各研究室	英検II (×1) 0826J 神山 1303 0826K 玉置 1302	TOEIC II (×1) 0830J 赤井 1306 0830K 玉置 1302	
水	英語コミュニケーションII (×1) 0032J 玉置 1302	韓国文化圏地域研究 (●2) 0815J 伊原 2501	経済と国際社会 (×2) 9939J 貝田 1406	エアラインビジネス (×2) 0822J 宮内 1303		
	韓国語II (●1) 0717J 伊原 1307	ツアーコンダクター (×2) 0821J 宮内 1307				
木	青年期の心理 (●2) 944HJ 中島 1406	進路対策II (×2) 0318J 齋藤、宮内、矢原、真下、宮川 2502 他	専門ゼミナールII (●2) 0637F 赤井 1306 0637G 伊原 1307 0637H 大方 研究室 0637I 北濱 研究室 0637J 竹内 研究室 0637K チョウ 研究室 0637L 真下 研究室 0637M 宮内 研究室	現代文明論II (○2) 942DJ 伊津、末松、神山、北濱 2502	中国語II (●1) 9954J チョウ 1304	
	中国語コミュニケーションII 9959J チョウ 1304 ※週2コマ【月3】開講				観光学概論II (×2) 1005J 大方 1406	
金	韓国語コミュニケーションII 0832J 伊原 1306 ※週2コマ【火2】開講 地域社会とボランティア (●2) 0701J 竹内 2501	現代社会と思想 (●2) 9940J 真下 1406	地域資源開発III (×2) 0803J 竹内 1406	まちづくりNPO論 (×2) 0722J 竹内 1406		
		情報リテラシーII (×1) 0220K 矢原、徳永、末松 第1, 2実習室	中国文化圏地域研究 (●2) 0721J チョウ 1303	フランス語II (●1) 9921J 真下 視聴覚		
				日本語コミュニケーションII (×2) 0225J 塩川 1307		
集中	企業実習 (×2)	齋藤、宮内	中国短期留学 (×2)	チョウ	海外短期留学 (×4)	東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学 (×6)	東海大学派遣留学制度他	海外長期留学 (×8)	東海大学派遣留学制度他	海外研修(航海) (×4)	

●履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

●実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2010年度授業時間割 情報処理科 (09生) 第3セメスター

● () 内の、記号は○:必修 ●:選択必修 ×:選択、数字は単位数を表しています。

●赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 曜日	1時限目 9:00~10:20	2時限目 10:30~11:50	3時限目 12:40~14:00	4時限目 14:10~15:30	5時限目 15:40~17:00	6時限目 17:10~18:30
月		デジタルデッサン (×2) 0631A 山下 第2実習室、1307	データ活用 (×2) 0624A 徳永、末松 第2実習室	専門ゼミナールIII (×2) 0638A 齋藤 研究室 0638B 末松 第4実習室 0638C 徳永 研究室 0638D 八尋 研究室 0638E 赤井 1306		
火	英語III (●1) 9489A 神山 LL 9489B 赤井 1304 9489C 吉岡 1303	情報と生活 (●2) 0602A 八尋 2501 経済と国際社会 (●2) 9939A 貝田 2502		広報メディア論 (×2) 0622A 宮内 1401	スポーツ理論及び実習III (×1) 0604A 北濱 コモンホール 他	
水	環境と地球 (●2) 0601A 伊津 2502	ビジネス情報 (●2) 0908A 貝田 2501	総合ゼミナールIII (○1) 0634A 伊津 0634B 齋藤 0634C 末松 0634D 徳永 0634E 宮川 0634F 矢原 0634G 八尋 各研究室	プログラミングI (×1) 9925A 宮川 第4実習室	□	
木	情報総合演習III (×2) 0905A 末松 第2実習室 0905B 徳永 1306 0905C 矢原 第1実習室	CAD (×2) 0001A 徳永 第4実習室	文学と歴史 (●2) 9963A 神山 1406	進路対策III (×2) 0319A 宮川 1306 真下 1307		
金	オフィス事務 (×2) 0014A 白川 1303	インターネット実習II (×1) 0011A 八尋 第4実習室	マーケティング (×2) 0720A 佐竹 第1実習室			

集中	海外短期留学 (×4)	東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学 (×6)	東海大学派遣留学制度他

●履修登録番号および教室のない科目については、後日揭示等で指示します。

●実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2010年度授業時間割 国際文化学科(09生)第3セメスター

●()内の、記号は○:必修 ●:選択必修 ×:選択、数字は単位数を表しています。

●赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 曜日	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	6時限目
月	9:00~10:20 ビジネス英語I(×1) 0415A 赤井 1306 野外活動理論及び実習I(×1) 0805A 北濱、前田 1307	10:30~11:50 観光中国語I(×1) 0707A チョウ 1306	12:40~14:00 英検III(×1) 0827A 吉岡 1303 0827B 岡崎 1306	14:10~15:30 韓国語コミュニケーションIII(×1) 0911A 伊原 1307	15:40~17:00 アジア観光研究(×2) 0823A 劉 1406	
火	英語III(●1) 9489A 神山 LL 9489B 赤井 1304 9489C 吉岡 1303	情報と生活(●2) 0602A 八尋 2501 経済と国際社会(●2) 9939A 貝田 2502	異文化交流論(●2) 9932A 赤井 1406	広報メディア論(×2) 0622A 宮内 1401	スポーツ理論及び実習III(×1) 0604A 北濱 コモンホール 他	
水	環境と地球(●2) 0601A 伊津 2502	リーディング・スキルII(×1) 0910A 神山 1302 0910B 赤井 1304	総合ゼミナールIII(○1) 0634H 伊原 0634I 大方 0634J 神山 0634K 北濱 0634L 竹内 0634O 真下 0634P 宮内・チョウ 0634Q 吉岡 各研究室	海外観光地理(×2) 0314A 大方 1406		
木	中国語コミュニケーションIII(×1) 9960A チョウ 1304	観光韓国語I(×1) 0709A 伊原 1307 生涯スポーツ(×2) 0804A 北濱 1406	文学と歴史(●2) 9963A 神山 1406	進路対策III(×2) 0319A 宮川 1306 真下 1307		
金		観光英語I(×1) 0213A 大方 1406	エコツーリズム論(×2) 0306A 大方 1406	まちづくりNPO演習(×2) 0817A 竹内 1307		

集中	スポーツ科学論(×2)	0607A 高妻
	救急処置法(×2)	0609A 宮崎
	海外短期留学(×4)	東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学(×6)	東海大学派遣留学制度他

●履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

●実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2010年度授業時間割 情報処理科 (09生) 第4セメスター

● () 内の、記号は○:必修 ●:選択必修 ×:選択、数字は単位数を表しています。

●赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 曜日	1時限目 9:00~10:20	2時限目 10:30~11:50	3時限目 12:40~14:00	4時限目 14:10~15:30	5時限目 15:40~17:00	6時限目 17:10~18:30
月			アニメーション (×2) 0111J 貝田 第2実習室		専門ゼミナールIV (×2) 0639A 齋藤 研究室 0639B 末松 第4実習室 0639C 八尋 研究室 0639D 赤井 1306	
火	IT教育法 (×2) 0625J 八尋 第4実習室	英語IV (●1) 9492J 神山 1305 9492K 赤井 1304 9492L 吉岡 1303	ゲームデザイン (×2) 0307J 伊津 第2実習室	スポーツ理論及び実習IV (×1) 0605J 北濱 コモンホール 他		
水	経済と国際社会 (●2) 9939K 貝田 1406	文学と歴史 (●2) 9963J 神山 1406	総合ゼミナールIV (○1) 0635A 伊津 0635B 齋藤 0635C 末松 0635D 徳永 0635E 宮川 0635F 矢原 0635G 八尋 各研究室	コンピュータ応用リテラシー (×2) 0407J 八尋 第2実習室	□	
木		情報と生活 (●2) 0602J 八尋 2501	経営基礎論 (×2) 0810J 佐竹 第4実習室	プログラミングII (×1) 9926J 宮川 第4実習室	編集基礎 (×2) 0623J 齋藤 第2実習室	
金		環境と地球 (●2) 0601J 伊津 2502	CAD実習 (×1) 9401J 徳永 第4実習室			

集中	海外短期留学 (×4) 東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学 (×6) 東海大学派遣留学制度他

●履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

●実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2010年度授業時間割 国際文化学科(09生)第4セメスター

●()内の、記号は○:必修 ●:選択必修 ×:選択、数字は単位数を表しています。

●赤で表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 曜日	1時限目 9:00~10:20	2時限目 10:30~11:50	3時限目 12:40~14:00	4時限目 14:10~15:30	5時限目 15:40~17:00	6時限目 17:10~18:30
月	ビジネス英語II(×1) 0416J 赤井 1306 野外活動理論及び実習II(×1) 0806J 北濱、前田 1307	観光中国語II(×1) 0708J チョウ 1307	英検IV(×1) 0828J 岡崎 1306	地域福祉(×2) 0901J 竹内 1406		
火	比較文化論(●2) 943JJ 神山 2502	英語IV(●1) 9492J 神山 1305 9492K 赤井 1304 9492L 吉岡 1303	韓国語コミュニケーションIV(×1) 0912J 伊原 1307	スポーツ理論及び実習IV(×1) 0605J 北濱 コモンホール 他		
水	経済と国際社会(●2) 9939K 貝田 1406	文学と歴史(●2) 9963J 神山 1406	総合ゼミナールIV(○1) 0635H 伊原 0635I 大方 0635J 神山 0635K 北濱 0635L 竹内 0635M チョウ 0635O 真下 0635P 宮内 0635Q 吉岡 各研究室	ヨーロッパ文化圏地域研究(●2) 0030J 真下 1406		
木	観光英語II(×1) 0214J 大方 1307	情報と生活(●2) 0602J 八尋 2501 中国語コミュニケーションIV(×1) 9957J チョウ 1304	アメリカ文化圏地域研究(●2) 0006J 吉岡 1406	観光メディア論(×2) 0422J 宮内 1406		
金	スポーツ・ヘルス(×2) 0608J 片平 1307	環境と地球(●2) 0601J 伊津 2502	観光韓国語II(×1) 0710J 伊原 1307			

集中	海外短期留学(×4) 東海大学派遣留学制度他 海外中期留学(×6) 東海大学派遣留学制度他
----	--

●履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

●実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

(6) 教科書

<1年春学期>

科目名	担当教員	書名	出版社	売価
英語 I	神山	Totally True Book 1	オックスフォード	1,810
	吉岡	Totally True Book 3	オックスフォード	1,810
	赤井・岡嵯	Totally True Book 2	オックスフォード	1,810
フランス語 I	真下	Salut!	駿河台出版社	2,500
韓国語 I	伊原	韓国語の初歩 改訂版	白水社	2,200
中国語 I	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	
秘書実務	赤井	秘書検定3級実問題集 2010年度版	早稲田教育出版	1,100
スポーツ理論及び実習 I	北濱	インディアカ	日本レクリエーション協会	1,260
日本語コミュニケーション I	塩川	日本語上級話者への道	スリーエーネットワーク	2,200
情報基礎	矢原	情報活用トレーニング	ウィネット	1,400
情報総合演習 I	佐竹	日商簿記3級合格テキスト	TAC出版	2,000
		最新段階式 日商簿記検定問題集 3級	実教出版	860
	宮川	2010春 ITパスポート予想問題集	iTEC	2,000
メディアリテラシー	伊津	メディアリテラシー	WestWind	700
情報処理 I	宮川	ITパスポート試験 対策テキスト 平成22年度版	FOM出版	1,800
コンピュータシステム	宮川	平成22年度 イメージ&クレーバーでよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室	技術評論社	1,780
2次元CG制作	伊津	2DCG	WestWind	700
カラーコーディネーション	飯田	カラーコーディネーションの基礎	中央経済社	2,800
簿記原理 I	佐竹	日商簿記3級合格テキスト	TAC出版	2,000
	佐竹	最新段階式 日商簿記検定問題集 3級	実教出版	860
簿記演習 I	佐竹	日商簿記3級合格テキスト	TAC出版	2,000
		最新段階式 日商簿記検定問題集 3級	実教出版	860
医療事務 I	古賀	日本医療事務協会オリジナルテキスト (※1)		13,500
旅行業法規	大方	2010 旅行業務取扱管理者試験 国内短期完成	エフィカス	2,100
国内観光地理				
英語コミュニケーション I	玉置	Talk a lot Book 2	EFL Press	2,400
英検 I	神山	ECC 英検準2級 ニューステップ	南雲堂	1,500
	玉置	新・英検2級 サクセスコース	金星堂	2,000
TOEIC I	赤井	新TOEICテスト470点攻略本	旺文社	2,000
	玉置	Kick Off for the TOEIC Test	金星堂	1,950
韓国語コミュニケーション I	伊原	コミュニケーション韓国語 会話編	白帝社	2,400
中国語コミュニケーション I	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	
スポーツレジャー論	北濱	現代人とレジャーレクリエーション	不昧堂	2,500
総合ゼミナール I	矢原、齋藤、八尋 宮川、宮内、真下 神山、竹内、大方	2011年度版 一問一答 一般常識[頻出]1500問 (※2)	高橋書店	1,100
専門ゼミナール I	宮川	平成22年度 イメージ&クレーバーでよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室	技術評論社	1,780
	赤井	秘書検定2級実問題集 2010年度版	早稲田教育出版	1,200
	チョウ	中国成語故事	天津社会科学出版社	1,410
	宮内	2010 旅行業務取扱管理者試験 国内短期完成	エフィカス	2,100

<2年春学期>

科目名	担当教員	書名	出版社	売価
環境と地球	伊津	環境と地球	West Wind	700
英語Ⅲ	神山・赤井	Tapestry Reading 1	松柏社	1,800
	吉岡	Tapestry Reading 2	松柏社	1,800
スポーツ理論及び実習Ⅲ	北濱	インディアカ	日本レクリエーション協会	1,260
情報総合演習Ⅲ	末松	日商PC検定試験 データ活用 3級 完全マスター	FOM出版	2,000
CAD	徳永	平成22年度版 CAD利用技術者試験 2級 基礎公式ガイドブック	日経BP	3,330
オフィス事務	白川	ビジネス実務の基礎	学文社	2,000
海外観光地理	大方	すぐに役立つ海外地理ベーシック400	JTB	2,000
アジア観光研究	劉	訪中旅行市場におけるディスティネーション・マーケティング研究 (※1)	くんぶる	1,500
観光英語Ⅰ	大方	Travel English at your Fingertips	成美堂	1,800
観光韓国語Ⅰ	伊原	使える朝鮮語	白水社	2,400
観光中国語Ⅰ	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	
リーディング・スキルⅡ	神山 赤井	5週間入試突破問題種基本英文法	開拓社	550
英検Ⅲ	吉岡	英語準一級予想問題ドリル	旺文社	1,360
ビジネス英語Ⅰ	赤井	Business as Usual	成美堂	2,000
韓国語コミュニケーションⅢ	伊原	よくわかる韓国語 step 2	白帝社	2,800
中国語コミュニケーションⅢ	チョウ	中国成語故事	天津社会科学出版社	1,410
スポーツ科学論	高妻	今すぐ使えるメンタルトレーニング:選手用	ベースボールマガジン社	2,000
専門ゼミナールⅢ	齋藤	微分積分学序論	学術図書出版	2,200
	赤井	秘書検定2級実問題集 2010年度版	早稲田教育出版	1,200

<1年秋学期>

科目名	担当教員	書名	出版社	売価
英語Ⅱ	神山	Totally True Book 1	オックスフォード	1,810
	吉岡	Totally True Book 3	オックスフォード	1,810
	赤井・岡寄	Totally True Book 2	オックスフォード	1,810
フランス語Ⅱ	真下	Salut!	駿河台出版社	2,500
韓国語Ⅱ	伊原	韓国語の初歩 改訂版	白水社	2,200
中国語Ⅱ	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	1,800
スポーツ理論及び実習Ⅱ	北濱	インディアカ	日本レクリエーション協会	1,260
進路対策Ⅱ	齋藤・宮内・矢原・真下・宮川	短大生のための就活編 (※1)	ディスコ	840
情報総合演習Ⅱ	佐竹	日商簿記3級合格テキスト	TAC出版	1,260
		最新段階式 日商簿記検定問題集 3級	実教出版	2,200
		日商簿記検定模擬試験問題集3級	実教出版	740
宮川	2010春 ITパスポート予想問題集	iTEC	2,000	
情報処理Ⅱ	宮川	平成22年度 イメージ&クラブでよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室	技術評論社	1,780
アルゴリズム	宮川	基本情報技術者大滝みや子先生のかんたんアルゴリズム解法—流れ図と擬似言語 第2版	リックテレコム	2,000
簿記原理Ⅱ	佐竹	日商簿記3級合格テキスト	TAC出版	2,000
		最新段階式 日商簿記検定問題集 3級	実教出版	860
簿記演習Ⅱ	佐竹	日商簿記3級合格テキスト	TAC出版	2,000
		最新段階式 日商簿記検定問題集 3級	実教出版	860
医療事務Ⅱ	古賀	日本医療事務協会オリジナルテキスト (※2)		13,500
英語コミュニケーションⅡ	玉置	Talk a lot Book 2	EFL Press	2,400
リーディング・スキルⅠ	神山・赤井	5週間入試突破問題集 基本英文法	開拓社	550
英検Ⅱ	神山	英検準2級 予想問題ドリル 改訂新版	旺文社	1,140
	玉置	新・英検2級 サクセスコース	金星堂	2,000
TOEICⅡ	赤井	Get Your Best Marks for the TOEIC Test!	松柏社	1,980
	玉置	Kick Off for the TOEIC Test 新・基礎から始めるTOEICテスト対策教本	金星堂	1,950
韓国語コミュニケーションⅡ	伊原	よくわかる韓国語 Step2	白帝社	2,800
中国語コミュニケーションⅡ	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	1,800
専門ゼミナールⅡ	宮川	平成22年度 イメージ&クラブでよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室	技術評論社	1,780
	赤井	秘書検定3級実問題集 2010年度版	早稲田教育出版	1,100
	チョウ	中国成語故事	天津社会科学出版社	1,410

<2年秋学期>

科目名	担当教員	書名	出版社	売価
英語Ⅳ	神山・赤井	Tapestry Reading 1	松柏社	1,800
	吉岡	Tapestry Reading 2	松柏社	1,800
スポーツ理論及び実習Ⅳ	北濱	インディアカ	日本レクリエーション協会	1,260
専門ゼミナールⅣ	赤井	秘書検定2級実問題集 2010年度版	早稲田教育出版	1,200
観光英語Ⅱ	大方	Travel English at your Fingertips	成美堂	1,800
観光中国語Ⅱ	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	1,800
ビジネス英語Ⅱ	赤井	Business as Usual	成美堂	2,000
韓国語コミュニケーションⅣ	伊原	よくわかる韓国語 Step2	白帝社	2,800
中国語コミュニケーションⅣ	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	1,800

2. 教育の質の保証と改善に向けて

(1) ゼミナールと個別指導

本学では、学生一人ひとりを、それぞれが希望する分野・履修ユニットに対応した、10名程度の少人数制のゼミナール（総合ゼミナールⅠ～Ⅳ）に所属させ、入学時から卒業まで、履修、学習・生活・進路指導など、学園生活全般にわたって個別指導を行っている。なお、所属するゼミは、入学時の第1セメスターでは、出願時の希望履修ユニットアンケートなどを参考にして、学科が学生の振り分け案を作成し、入学後の学生との面接により最終的に決定する。その後は、セメスター毎に学生の進路希望変更、学習分野の変更等に応じて調整を図りながら、各教員が提示するゼミの教育内容・方針を参考に、学生がゼミを変更できる体制をとっている。

また、本学では、学生一人ひとりの様々な情報を集約し、全ての教職員が共有するためのWebシステム「学生カルテ（Student Relationship Management System/SRMS）」を運用している。平成11年度から運用されている本システムは、本学専任教員によって開発され、以降、継続的な改善・改良が施され今日に至っている。この学生カルテによって、学生の個別情報の迅速かつ的確な把握と、教職員同士の情報の共有化が可能になったことで、総合ゼミナールでの個別指導の現場に、書き込まれた様々な情報が直接反映され、「学生一人ひとりに一対一で向き合う」ことを目指す、本学のきめ細かい個別指導の基盤を構成している。

(2) FD活動

1) 目的

本学は「学びの自由化と個別教育」を基本方針に据え、多様性を増す学生一人ひとりに対応できる教育の実現による、初期高等教育そのものの質的変革を目指している。また、高等教育機関としての短期大学の存在意義が厳しく問われている現状において、本学が今後も生き残っていくためには、教育機関としての原点である教育能力の向上を第一に考えねばならない。これらの目標を実現するために、以下の3点を中心に研究活動を進める：

- リアルタイム授業評価の実施推進
- 相互授業参観の実施
- FD研究会

2) リアルタイム授業評価の座学授業での実施率向上

本学教員により開発されたリアルタイム授業評価システムは一部の若手教員でのみ実施されていた。本システムの有効性は関連学会でも認められており、私立情報教育協会からの講演依頼や、科研費採択の実績もある。しかしながら肝心の本学での実施率が非常に低い状況にあった。この理由として、本システムがWorld Wide Webを用いるため、授業評価を実施するにあたり、PC環境を必要とすることであった。そこでシステムを改良し、学生への普及率がほぼ100%であるケータイ（Webブラウジング機能を持つ携帯電話）を用いて授業評価が実施できるようにしている。これによりPCを利用しない授業、とりわけ座学授業でも本システムが利用できるようになった。しかしながら、学生が個人的に所有するケータイを利用することは、本システム利用の際に発生するケータイのポケット通信代負担の問題があり、教員・学生ともにその実施に躊躇する傾向が見られた。

そこで、授業評価の実施に要するポケット通信代相当を学生に支給することにより、授業評価実施の金銭的問題を解決し、授業評価の実施率アップを試みた。

2010年度は延62科目（前年比-2科目）でリアルタイム授業評価が実施され、総計7,346件（前年比109%）の授業評価を得た。実施した科目は、情報リテラシー、情報基礎、情報処理Ⅰ、プレゼンテーション、地域資源開発、総合ゼミナール（一部）、インターネット基礎、プログラミング基礎、コンピュータシステム、国際文化論、情報と生活、文学と歴史（順不同）などである。また本学教員の非常勤勤務先での授業（福岡教育大学、西南学院大学）や、本学での非常勤講師による授業でも実施されている。

実施科目数は前年比96%と減少したが、評価者数は前年比109%と増加している。

※実際の授業評価結果は下記URLで公開している。

<http://mast.ftokai-u.ac.jp/mp6/?cmd=p>

3) 相互授業参観の実施

他の教員が担当する授業を参観し、自分の担当する授業の教授法の改善を行うことを目的とした。こ

れまで本学においては、過去、若手教員数名による授業参観形式による教員相互の授業評価を行った経験がある。残念ながら当時はこれに対する否定的な考えが多く、恒久的な取り組みとして継続されなかった経緯がある。近年、「授業評価」という形で学生による授業評価が日常的に行われている今日に至り、再度、教育の専門家として相互に授業を参観し、お互いの授業を検証する機会を得ることは、教育者としての観点からの教員同士の横のつながり、また、相互に刺激になり、よりよい教授法の開発・展開につながることを期待できる。

具体的には次の手順により行った。

- 1) 教員は自分が担当する科目から任意の科目について、「公開」する旨を通知し、他の教員に対して授業参観機会の情報（日時・科目名など）を提供する。なお、通知は「業務システム」(Web) 上で行う。
- 2) 教員は、提供された参観機会情報を元に、参観を行う。
- 3) 参観に際しては、指定された参観レポート表を持参し、レポート作成を行う。
- 4) 作成されたレポートは、FD 委員会を通じて授業者に提供する。

また、授業参観に際し、使用したレポートの参観ポイントを次のように設定した。

実施の実際

相互授業参観が2回目の試みである今年度は、実施期間を春学期と秋学期の2期にわけた。春学期は、17名が33科目で、秋学期は、10名が16科目で参観授業を主催した。授業参観レポートは2009年度と同じ書式とした。

授業参観レポート（2009年度）

科目名	
参観日	年 月 日 時間目
授業者名	
参観者名	
参観種別	<input type="checkbox"/> 直接 <input type="checkbox"/> ビデオ

4) FD 研究会

FD 研究会を2011年2月23日に実施した。内容は次のとおりである。

2010年度のFD活動概要報告

リアルタイム授業評価の報告

報告者 八尋剛規(FD委員長)

概要

※本年報に示した内容の報告を行った。

授業運用に関するアンケート調査報告

報告者 神山高行 (FD委員)

特別研究費運用報告

2010年度特別研究費の補助をうけて学会発表を行った教員のうち、以下の3名から研究内容についての報告が行われた。
報告者：伊津信之介教授、大方優子講師、矢原充敏教授（以上3名）

	レポート
(準備)授業はよく準備されていましたか？	5 4 3 2 1
(導入)授業の目的や目標が明確に説明されていましたか？	5 4 3 2 1
(展開)授業の題材は適切でしたか？	5 4 3 2 1
(展開)授業に対する授業者の熱意が学生に伝わっていましたか？	5 4 3 2 1
(展開)教具(黒板、プロジェクターなど)は適切に利用されていましたか？	5 4 3 2 1
(展開)授業は学生の理解度に応じた適切な早さで展開されましたか？	5 4 3 2 1
(展開)双方向授業になっていましたか？	5 4 3 2 1
(展開)学生を授業に参加させる工夫が見られましたか？	5 4 3 2 1
(学習者)授業の内容を学生が十分に理解したと思いますか？	5 4 3 2 1
(学習者)学生は授業ノートなどを作成していましたか？	5 4 3 2 1
(総合)この授業はあなたの今後の授業展開に参考になりましたか？	5 4 3 2 1

※レポートは、5が「そう思う」、1が「そう思わない」

授業に明らかに参加している学生の数 人 その割合 %

授業に明らかに参加していない学生の数 人 その割合 %

自由記述欄 授業内容や授業者に対する意見、感想を自由に記述してください。

ご記入後、FD委員長（八尋メールボックス）までご提出ください。

(3) eラーニング

近年の少子化や短期大学をめぐる社会的要請の変化などにより、入学する学生の特徴は、年齢・国籍・学習経歴・基礎学力から、入学目的・希望進路に至るまで、多様化の一途を辿っており、個々の学生に対応した教育システムの確立が必要不可欠となっている。これらの学生指導に対し重要なことは、「個々の学習意欲、学習暦、学力レベル、目標、希望進路などを、トータルに、時と共に、的確に把握し、最適な出口に導くこと」である。

本学では、その実現に向けて eラーニングによる授業形態を導入し、{いつでも} {どこでも} {誰でも} 学ぶことのできる個に対応した体制づくりを推進している。

1) 取組み概要

本学では、(1)本学教員による独自のウェブ教材(2)学生カルテ(3)メンタリング、の3つを eラーニング実現の中核要素とし、これらの有機的な結合によって、多様な個々の学生に対する教育効果の増進を図っている。具体的には、授業担当教員とのメンタリング等によって得られた、学生の学習状況・希望進路・生活状況などの情報を学生カルテに蓄積し、教員間で共有する。この情報をもとに、教員は個々の学生の将来目標や能力に適する教材を提示することや、その時点での学生の状況に応じたより適切なメンタリングを推進している。

2) eラーニング科目と単位認定

正規科目のうち14科目(計24単位)を eラーニング履修可能科目として教材・環境等を整備し、運用している。これらの科目については、通常の対面授業も実施しており、学生は科目担当教員と相談のうえどちらの授業形態で受講するかを選択することができる。分野別科目数一覧を以下に示す。なお、具体的な eラーニング科目については、先に示したカリキュラム表のとおりである。

科目区分別 eラーニング科目数一覧

科目区分	科目数
両学科共通	4
情報処理学科専門	9
国際文化学科専門	1

3) 支援体制

本学の eラーニング教材の開発支援・運用に関しては、メディア情報センターがその全てを行っている。特に、メディア情報センターの下部組織であるラーニングリソースラボが、その中心的役割を担っている。

eラーニング教材の開発は、授業担当の教員を中心に、ラーニングリソースラボスタッフが Web 化、技術指導、ビデオ撮影、編集作業などを支援する。

4) 現状の問題点と改善に向けての取組み

本学の eラーニングに対する取組みも、2005 年度に本格稼働後、導入目的であり、本学の教育の特長の一つでもある個別教育の具現化、及び多様化した学生に対する教育の質向上に一定の成果をあげてきた。しかし、極めて早い社会の動きの中で科目内容の見直しスピードに教材開発が追い付かず、対象科目が減少傾向にある。また、本学学生の学習状況等から eラーニング受講に適さない学生層の増加も見受けられなどの問題もある。今後は、eラーニング教材を授業の中でどのように活用し、カリキュラムの中で eラーニングを道のように位置づけていくのかを早急に検討する必要がある。

(4) 実践教育

1) 取組み背景と目的

2008 年度 文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム(教育 GP)」に本学が独自開発した「地域活性化型人材育成プログラム」が採択され、今年度で最終年の3年目を迎える。この取組の目的は、下

記のとおりである。

近年若者の早期離職が、社会問題化している。この問題は、本学においても他人事とは言えない。本学において、この問題は顕著に表れていないが、大学全体の問題として真摯に受け止め対応する必要がある。本取組みは、そのようなことを踏まえ若者の早期離職を減少傾向に導くための学生の人材育成を地域で行うものである。大学自体の教育の質が大きく問われている昨今、社会に人材を輩出する大学が、この問題に取り組むことは大きな意義を持つ。そこで、本学の教育の基本方針「学びの自由化と個別教育」を基盤に、この社会ニーズに合致した、より質の高い教育を実現するため、これまで培ってきた教育への ICT 活用に関する実績を用いて、この問題に取り組もうと考える。その取組とは、前述したように大学の授業そのもののフィールドを地域に求め、そこで行う調査研究そのものを社会人となるための訓練プログラムを伴った持続可能な実践活動とするものである。この取組によって、学生の早期離職の減少を図るとともに、多様化した社会に順応できる人材育成を実現し、その活動成果が地域の活性化に繋がることを目的としている。

2) 実施体制

2007 年度に開設された地域総合連携研究室が、この取組み中心的役割を担う。ここでは、地域と大学をつなぐ窓口としての役割が求められ、その一方で実践活動を通して学生自身が「自分で考え、行動することの大切さ」に気付くように教育的指導を行う。また、様々な取組みを行うに当たって、学内調整も大学事務室や教授会と調整をとりながら進めていくものである。

3) 主な活動

a. イベントの実施

年間を通じて、学生を主体とし、地域と連携した実践的な教育活動を展開している。

b. 産官学民連携による取組み

① 教育 GP 最終報告フォーラムの開催

2月8日に北九州市小倉北区の国際会議場で、教育 GP 最終報告フォーラムを実施した。この最終報告フォーラムのテーマは、「感謝と地域活性化」とし、3年間の活動を総括するものである。第一部は、学生が主体となって、3年間の活動についてのプレゼンを行った。

第二部では、「多様な個性とグローバル人材」と題して、日本政策投資銀行 産業調査部長の鍋山徹氏をお迎えして基調講演を行った。

第三部では、「地域活性化と学生の役割」と題して、パネルディスカッションを行い、本取組の3年間の意義について意見交換を行った。

② 相島活性化プロジェクト

本プロジェクトは、福岡県糟屋郡新宮町に浮かぶ相島で2010年11月2～3日に実施される「第17回朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会新宮大会」を盛り上げるために、これに先駆けて大会 PR を兼ねたイベントを行ったものである。「朝鮮通信使」に関する歴史的な理解、現地視察、島民との共同作業、イベント企画、企画開催などの流れを通じて、企画力、行動力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成を目的とした活動を行った。

4) 今後に向けて

2012年度よりプロジェクト実践を1つの基軸としたカリキュラムの抜本的な改定を行い、各専門科目が完全にプロジェクトと連携した教育体系を目指す予定である。また、学科の専門性に応じたプロジェクトテーマをいくつか設定し、これらを必修科目の設定として全学生を対象とした体制を計画している。

(5) 一貫教育

付属高校との一貫教育体制により、付属推薦入試入学予定者のうち付属第五高等学校対象にした事前学習と学園内の大学進学予定者のうち成績上位者を対象にした体験留学制度を入学前教育として実施している。付属第五高校の「現代文明論」科目への講師派遣も行っている。また、福岡県立折尾高等学校と高大連携授業の提携を行い、資格取得を中心として講師を派遣している。

1) 事前学習

付属第五高校より本学へ進学する生徒を対象に情報処理科、国際文化学科ともに短大の教育環境に早い段階から慣れ、入学後スムーズに短大生活に溶け込むことを目的として、高校の3年後期に開講している。

今年度は「ビジネス基礎」(担当:西野学長、矢原教授、吉岡教授、八尋准教授、竹内准教授、大方講師)を開講した。受講者は11名で短大のコンピュータ実習室を用いて行った。例年、担当者からは報告書の提出があり、同様に高校へもフィードバックし次年度の参考としている。この授業は入学後の申告により短大の単位として認定している。

2) 体験留学

今年度は該当者がいなかった。この体験留学制度は毎年実施しており、「東海大学付属高等学校特別奨励入学制度」に該当する成績優秀な生徒を対象に、早い段階で大学の専門教育を受講させ、大学・高校への接続をスムーズにし、大学への入学前の準備を充実させることを目的にしている。本学園の特色の一つである一貫教育の推進を図る重要な制度であり、今後も内容の充実と福岡キャンパスの教育連携に勤め継続実行できるよう努めていきたい。

3) 高校現代文明論

付属第五高校の1年生に対して、より専門性の高い講義を行うことでその後の勉学意欲向上と早期に高等教育機関への関心を高めることを目的として実施している。

今年度は5名の講師を派遣し、「大学的視点からの現代文明論」、「知的財産教育としての実践教育」、「語学」「観光」「ICT」の内容で講義を行った。付属生に高等教育機関への関心と意識を持たせる上で重要な役割を担っており、今後も継続実行していく必要がある。

4) 折尾高校との高大連携事業

折尾高校の課題研究の時間(週2日3コマ)を利用して、情報系国家資格の取得支援(担当:宮川講師)を実施している。対応する試験は「基本情報技術者試験」と「ITパスポート試験」である。今年度も昨年度から引き続き、本学内で運用しているコンテンツマネジメントシステム(Moodle)を活用することによる、完全eラーニング体制のもと実施した。今年度の受講者は後期のみ2名と、これまでに比べて大きい減少が見られた。これは、eラーニング体制ゆえに、強い学習意欲が無い生徒の場合、効果が見込まれにくいということと、折尾高校側において、そういった強い意欲を持つ生徒以外は他の資格挑戦を推奨しているということが影響していると考えている。

本学の教育の特徴を近隣の高校に提供することは、双方にとって意義のある取り組みであるので、今後も連携の幅を拡げていくとともに、その教育の質向上を図っていきたい。